

顕彰状

島田正吾氏（本名・服部喜久太郎氏）は1905年12月に神奈川県横浜市保土ヶ谷に生まれた。一時期関西に住み、早稲田を目指しミッションスクールに入学したが、この頃に学業を放棄してでも俳優になりたいとの希望が生じたといわれる。つまり、新国劇の魅力に取りつかれ、俳優として生きることを心に誓ったのである。

新国劇は芸術座を脱退した俳優の沢田正二郎が1917年に結成した劇団であるが、早稲田大学教授坪内逍遙博士が愛弟子沢田正二郎のために、歌舞伎、新派など従来の日本演劇に対抗した新しい国民演劇の創造を願って「新国劇」と命名したものである。

沢田率いる新国劇は東京での旗揚げには失敗したが、大阪でリアルな剣劇が受け、次々とヒット作を生んでいった。島田正吾氏はその舞台を見て、「沢正」こと沢田正二郎の凄まじいばかりの闘魂に深く心打たれ、ついには学業を放棄してまで俳優になりたいと願うようになったのである。そして再び東京に戻った島田正吾氏は、沢田正二郎が東京に地歩を固めた時期の1923年、新国劇に入団した。なぜ新国劇を選んだかと聞かれて氏は、幼い頃から芝居が好きであったうえ、早稲田志望だったので、早稲田出身の沢田正二郎の人と芸術に心ひかれたからにはほかならないと語っている。

その後1929年、沢田正二郎が36歳で急逝。大黒柱を失った新国劇は解散の危機に見舞われる。しかし、辰巳柳太郎と共に島田正吾氏が看板俳優となって活躍し、再建の道を歩み、沢田正二郎が唱えた「右に芸術、左に大衆」の半歩前進主義を引き継ぎ、第二の黄金時代を築いた。その代表作には「白野弁十郎」「関の弥太っぺ」「一本刀土俵入」などがある。

このように島田氏は新国劇を代表する俳優であったが、映画、ラジオ、テレビでも目覚ましい活躍をしてきた。特に戦後においては舞台作品の映画化を進め、数多くの映画に出演した。1958年には毎日演劇賞、1969年には紫綬褒章を受章、さらに1974年には芸術選奨文部大臣賞、1976年には勲四等旭日小綬章を受章している。その後島田・辰巳のコンビで守り通してきた新国劇は、1987年解散することとなった。しかし、その後も島田氏はテレビ、舞台と多方面で活躍し、昨今はひとり芝居に力を注ぎ、現役最年長の俳優として記録を更新している。その上演は、氏の芝居への情熱、執念を余すところなく表し、観客に深い感動を与えてきた。1992年にはひとり芝居「白野弁十郎」をパリで公演、高い評価を得てフランス政府から芸術文化勲章シュバリエ章を受章している。

氏と早稲田大学の関係は実に浅からぬものがある。坪内逍遙と沢田正二郎の新国劇との関係については前述したが、1929年の沢田正二郎死去の折、島田氏らが大隈講堂において新国劇を公演して息を吹き返したという事実もその一つに数えられよう。その後も氏は大隈講堂を舞台にいくつかの公演を行ってきた。1991年には第14回逍遙祭における「白野弁十郎」、1993年には「人生劇場吉良常篇五場」の寄付公演などがある。そして2000年10月には、早稲田大学創立125周年記念公演として「白野弁十郎」が上演された。95歳間近という高齢のため付き人に手を取られ入場されながら、ひとたび舞台にあがると、そこに青年白野弁十郎がいて、足取りも若々しく悠然とした姿と氏の役者としての気迫に会場全体が圧倒された。この時本大学は、これまでの氏の本大学でのさまざまな公演に対して感謝し、「推薦校友」となっていた。

以上の業績と早稲田大学に対する貢献を称え、早稲田大学は校友島田正吾氏を早稲田大学芸術功労者として永くその榮譽を顕彰するものである。

2001年3月25日

早稲田大学